

小鳥と兄妹

小川未明

青空文庫

まち 町からはなれて、静かな村に、仲のいい兄妹が住んでいました。

兄を太郎といい、妹を雪子といいました。二人は、毎月、町へくる新しい雑誌を買ってきて、いっしょに読むのをなよりの楽しみとしていました。

ある日のこと、二人は、雑誌を開いて見えていますと、その月には、美しい花や鳥の写真がたくさん載っていました。

「まあ、きれいだこと、兄さん、この鳥は、よく見る鳥じゃありませんか。」と、雪子はいいました。

その鳥は、すずめほどの大きさで、くびのまわりが紅く、まことに美しかったです。

「ああ、この鳥は、よく庭の木にやってくるうそという鳥だ。こちらにはたくさんいて珍しい鳥でないけれど、東京へゆくと、この鳥は少ないとみえて、たいせつに飼われるのだね。」と、兄はいつて、雑誌に書いてあることを妹に読んで聞かせたのです。

このとき、うそが、ちょうど庭の木にきてとまっていました。兄と妹が、雑誌を開いて、自分の写真を指さしながら、話をしているのをじつとながめていました。鳥というもの

は耳みみざといものでありますから、二人ふたりの話はなしはなんでもよくわかりました。そして、目めもよ
くききましたから、二人ふたりが、窓まどの下したで見みている雑誌ざっしの絵えもわかりました。

「いま、あの子供こどもさんたちがいつているのを聞きくと、ほかの国くにへゆけば、自分じぶんは大事だいじにさ
れるということであるが、いつたいどこだろう……。ああして、絵えにまで自分じぶんの姿すがたをかい
て出だしてあるのを見みれば、まんざらうそのことではない。」と、うそは思おもいました。

この小鳥こどりは、寒さむい、寒さむい、北きたの国くにに産うまれたのでした。もう夏なつもやがてくるので仲間なかまと
いつしよに、ふたたび故郷こきようへ帰かえる約束やくそくをしましたのであります。天気てんきのいい日ひを、見みはか
らって、彼かれらは旅立たびだつことになっていました。

うそは、友ともだちとした約束やくそくを忘わすれなかつたけれど、
「どうか、自分じぶんをかわいがってくれる、その知しらない土地とちへいつてみたいものだ。」と思おも
いました。

彼かれは、木きから飛とびたつと、はるかあちらへ飛とんでゆきました。そして、街道かいどうにあった、
一本ほんの電でん信しん柱ぼしらにきて止とまったのです。いつであつたか、電でん信しん柱ぼしらが、なんでも自分じぶん
に聞きけば、この世よの中なかのことで、知しらないものはないといった、そのことを思おもい出だしたか
らでした。

「青く晴れた、空の下で、電信柱は居眠りをしていました。その頭の上に止まると、小鳥は、黒いくちばしでコツ、コツとつついて、彼の眠りをさました。」

「ああ、眠いことだ。いい風が、そよそよと吹くので、ぐっすり眠ってしまったが、俺を起こしたのは、何者だ？」と、電信柱は、不平をいわずには、いられなかったのです。

「私ですよ。いつか、あなたから、おもしろい話を聞かせていただいたことのある、旅の小鳥です。」

「ああ、そうでしたか。まだおまえさんたちは、北の国へ帰らないのですか。あの雲をこらんない。これからは、だんだん暑くなります。そして、日中の旅が困難になりますよ。」と、電信柱がいました。

「私だけは、故郷へ帰らないと思うのです。それで、あなたにお聞きしたいと思うのですが、どこかの国で、自分たちを大事にして飼って、もてなしてくれるところがあるというのですが、ほんとうでしょうか。」と、うそはたずねました。

すると、電信柱は、脊伸びをしながら、

「それは、ほんとうのことらしい。いつか、下の街道を通る旅人が、いろいろ小鳥の

名をいって、金になるなどといっていたが、たしかその中におまえさんの名もあつたと思う。」と答えました。うそは、体じゆうが熱く、赤くなつたように感じました。

「電信柱さん、そこへはどうしてゆけるか、教えてください。」と、小鳥は頼んだ。

「さあ、なんといいところか、場所さえわかれば、汽車に乗ってゆくとも、また、あちらの港からたつ汽船に乗ってゆくとも、また方法はいくらかもあるが、その町の名は、私にもわかりません……。」と、電信柱はいいました。

あわれな小鳥は、そこから飛び立つと、もう一度、あの兄と妹が雑誌を開いて話をしていた窓の前にあつた木にきて止まりました。そして、自分たちをかわいがつてくれる町の名を知りたいと思ひました。しかしきてみると、その窓は、閉まつて、仲のいい兄と妹の姿は見えなかつたのです。うそは、いい声を出して鳴きました。けれど、ついに窓の障子は開きませんでした。

うそは、このとき、はかない希望を捨て、みんなといつしよに故郷へ旅立つことを決心しました。そして、青い空を、あちらに駆けて、自分を待つてゐる友だちのいる方へ去つたのであります。

青空文庫情報

底本：「定本小川未明童話全集 5」講談社

1977（昭和52）年3月10日第1刷

※表題は底本では、「小鳥《ことり》と兄妹《きょうだい》」となっています。

入力：特定非営利活動法人はるかぜ

校正：江村秀之

2014年2月14日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたってのは、ボランティアの皆さんです。

小鳥と兄妹

小川未明

2020年 7月18日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>